平成 30 年度授業改善に関するカリキュラム・マネジメントリーダー研修　成果報告書

校長・准校長サイン	名前

学校名　　府立 西寝屋川 高等学校	名前

１　学校教育目標（めざす生徒像）

１）基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。

２）キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り開くことができる、社会の中でたくましく生きる力をつける。

３）学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、より良い社会の構成員をめざす。

２　平成 30 年度の校内研究の取組み

（１）研究テーマ及び設定理由

①研究テーマ

チーム西寝屋川つながる授業改革　　～つながる知識・つながる生徒・つながる未来～

②テーマ設定理由

本年度の校内研究の方向性を決定するために、４月に第一学年（234 人）を対象に「理科アンケート」を実施した。その結果、生徒たちは理科への関心が低く（「理科が好き」　否定率 61%）、自分の将来に役立たない（「理科は役立つ」　否定率 66%）と思っている生徒が大半を占めていた。また、学んだ知識を普段の生活の中で活用する、知識活用が不十分（「理科の知識を活用できる」　否定率 74%）ということが明らかになった。しかしながら、「観察や実験は好きですか」という項目に関しては肯定的（肯定率 69%）な回答が大半を占めており、生徒たち自身が、自分の手を動かし、考えて、学び取ることが授業改善のポイントになりうると考えられた。

そこで、本年度は**授業の知識を普段の生活につなげて活用できるような授業改善が必要**であると考え校内研究に取り組んだ。

（２）校内研究の取組みについて

◎校内研究取り組みの中核チーム　IJKST（ICT 授業改善促進チーム）

本校は平成 28 年度より、校長の呼びかけにより、ICT 機器の授業活用を推進する教員の有志のチームを結成している。各教科から、積極的に ICT を授業活用しようとしている教員が集まり、効果的な ICT の活用方法や、校内での ICT 活用をどうすれば広めていけるかを議論してきた。平成 30 年度は国語１名、数学３名、英語１名、理科３名、社会２名、情報１名の教員からなり、メンバーの中には首席、教務部長、学年主任の者も含まれる。

①　研究の基本的な考え方・全教職員で共通理解したこと（明確化した今年度のポイント）

本校は平成29年度よりパッケージ研修支援を受けており、昨年度からの積み重ねがある。例えば、西寝屋川版 CanDoList は、昨年度の２回の職員研修全体会でのワークショップをもとに作成されたものである。７月に現状および課題の共有、２月に３年間で生徒につけさせたい力を共有できるようなワークショップを実施し、その成果物が西寝屋川版 CanDoList である。

【教科・科目：　国語　】			
年次	1	2	3
学校目標	1. 基礎学力の充実で、確かな学力を身につけ、各自の将来の可能性を広げる。 2. キャリア教育を計画的に実施し、自らの目標を、自ら切り拓くことができる、社会の中でたくましく生きる力をつける。 3. 学校生活の充実、活性化により、集団における規範意識、社会性を身につけ、より良い社会の構成員をめざす。		
学年目標	・学校生活の面では･･･、時間を守る、約束を守る。 ・自己実現のために･･･放課後をしっかりと使う。 ・自尊感情を育成･･･。 ・挨拶をさせる、挨拶をする。	・遅刻や服装指導の徹底と、挨拶やことばの指導（特にSNS） ・授業や集会での「話を聞く態度」の徹底 ・進路について、「自ら調べる、知る、決める」を指導 ・指示されなくても周りを見て判断し、行動する指導	・基本的生活習慣を身につけさせる ・最高学年として下級生の模範となる生徒を育成する ・西寝屋川高校の評判を高めるような生徒を育成する ・自己進路実現のあ、将来をしっかり考えさせ、学力をつけさせる
キャリア教育	・将来の夢・あこがれを探す ・職業について知る ・自分の学力を知り向上させる	・夢　あこがれの準備をする ・校外レベルの学力を知り、さらに伸ばす	・自分の興味・強みなどを知る ・学校情報の収集・検討により志望校を絞る （進路実現に向けて具体的に取り組む）
教科目標	□教材の内容について考える・表現力をつける ・必要な情報の集め方がわかる（＝読み取れる）←教材の内容をしっかり読み取る（＝読解力をつける）、教材の内容について考える（＝疑問を持ち、感じる） ・読書を楽しめる力 ・文章を読もうとする力を身につける ・実用的or公的な文書の理解と記入ができる国語力 □教材に対し、自分の意見を持つ ・考える力をつける ・自分の言葉で伝え合う力を獲得 ・自分の言葉で表現する □教材の表現を通して、自分には無い読み方や考え方を身につけ、世の中に出ても自分で物事を考え、表現する力をつける ・ルールを守る ・丁寧な言葉遣い		
各学年教科での目標	・ルールを守る（必要なものや指示されたものを読む） ・文章を読もうとする（聞き取った内容をきちんとメモを取る、人の話を落ち着いて、最後まで聞き取る） ・考える姿勢を持つ ・文字をしっかりと書く ・ノートやプリントの内容を復習する	・敬語について学習する ・グループワークを通して、他者の意見を聞き入れる ・文章の書き方を知る　→　作文を書く ・好きな内容のものを（自分で）読んでみようとする ・勉強する時間を確保する	・「読み書き」を重視する ・自己ＰＲ等の文章を書ける ・ＴＰＯをわきまえた言葉遣いができる ・内容に関わらず（自分で）読んでみようとする
進捗状況（９月末）	・４月に図書室オリエンテーションを受け、本の探し方及び貸し出し返却のルールを学んだ。 ・国語総合Ａの授業で、自分について考え、表現する文章を書いた。２学期には、１年間の自分を振り返り、自分の言葉で表現する文章を書く予定。 ・ノートは、復習のために、黒板のまとめに加え、聞き取った内容のメモを取った。	・現代文Ｂの時間に敬語について学習した。 ・グループワークを古典の時間に実施し、他者の意見を聞く活動をした。 ・現代文Ｂの時間に感想文という形で作文をした。 ・図書館の利用法について学んだ。	・現代文では教科書本文の音読を通して、漢字の読みを身につけたり、教材ごとの感想を書く活動を行ったりした。 ・国語演習の授業では、小論文の構成を学習したのちに自分の夢についての小論文などを書き、自己の理解を深めた。 ・国語演習の時間には、図書館で作業を行い、作品の作成が終わった生徒は図書館の本を読むように指導した。
達成状況（２月末）			
次年度への課題			

表１）西寝屋川版 CanDoList。学校目標、学年目標、キャリア教育目標、教科目標、教科の各学年での目標を学年ごとにまとめた表である。職員研修の全体会でワークショップをもとに作成した。目標に対して、９月末に進捗状況、２月末に達成状況と次年度の課題をまとめていく。全ての教科で作成した。＊国語科のものを抜粋

カリキュラム・マネジメントとは「カリキュラムを主たる手段として、学校の課題を解決し、教育目標を達成していく営み」とある。そのための方策として、本校では西寝屋川版 CanDoList を作成することで、学校教育を構成する教員一人ひとりがどんな生徒を育てたいか、そのために各学年でどんな教育活動が必要かを議論し明文化した。これにより、教科・学校全体で課題や目標を共有し、学校課題を解決するための素地が整いつつある。これを踏まえて、教育目標を達成するために、いかに授業を充実・発展させるかが本年度のポイントである。

②具体的な取組み

本年度は以下の４つの取り組みを行った。

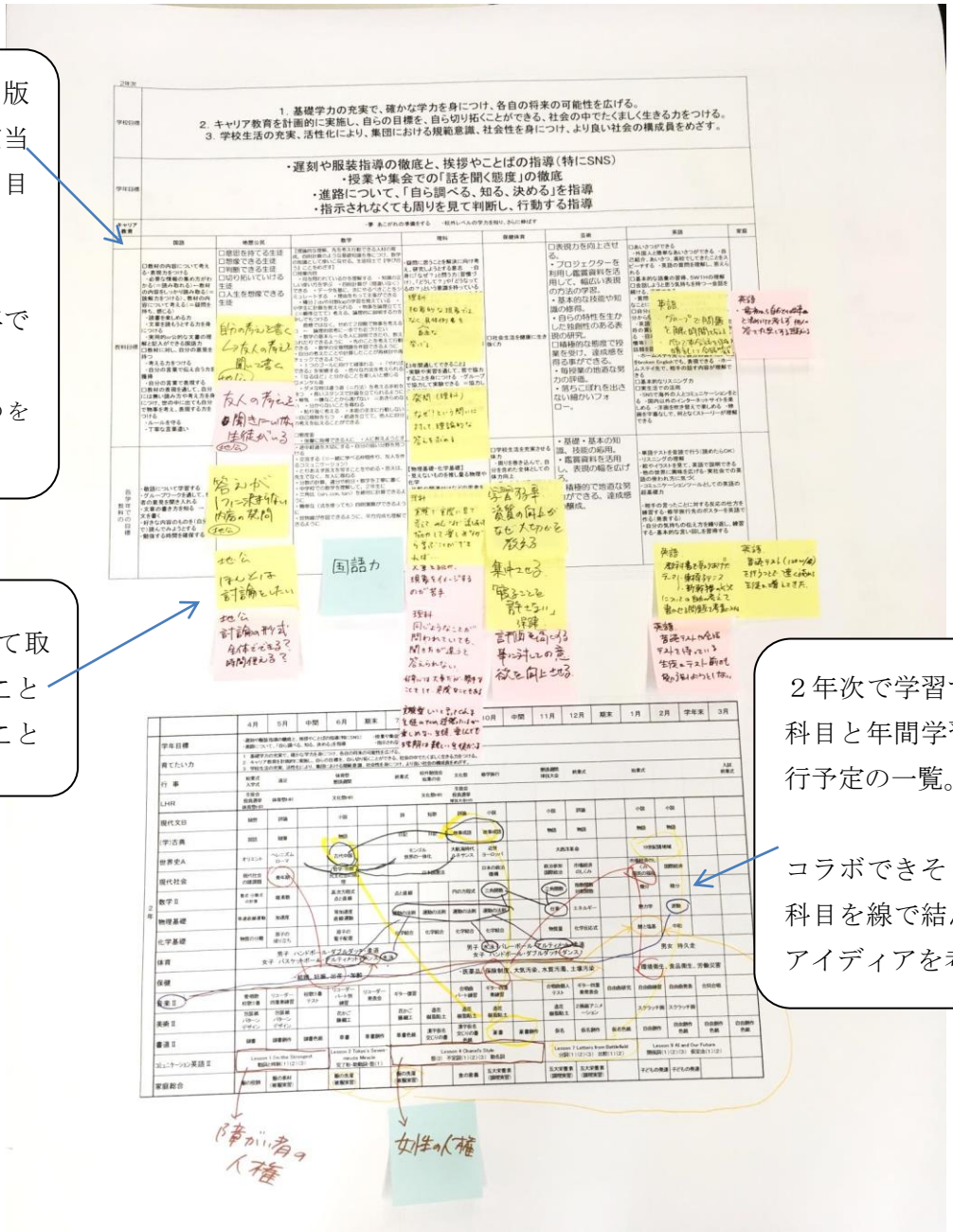
a）職員研修全体会、ｂ）研究授業・授業見学、ｃ）ｉプロ通信、ｄ）探究的な活動

a)職員研修全体会

本年度は７月と２月に２回の職員研修全体会を実施した。参加率を上げるために、第１回は期末考査期間中の午後にある職員会議後に設定し、第２回は職員会議のない木曜日に設定した。

第１回全体研修会　日時　平成 30 年７月５日（木）

各グループに１名以上の IJKST のメンバーがファシリテーター役となって、議論を円滑に進めた。付箋の利用は、「取り組んでいることを黄色の付箋」、「困っていることを赤の付箋」、「解決策を青の付箋」を用いることで、意見を出しやすく、視覚的にわかりやすい形にまとまるようにした。Ａ０サイズのポスターに西寝屋川版 CanDoList とカリキュラム表を印刷することで、直接書き込めるように工夫した。学年ごとのカリキュラム一覧表により、担当教科以外の科目も視覚化することで、他の教科で学んだことを担当科目に活用し（知識活用）、さらに教科横断的な視点を取り入れることで、生徒の複眼的なものの考え方の習得に役立つと考えられる。



西寝屋川版 CanDoList、該当学年の各教科目標をまとめた。

・教科目標

・教科の各学年での目標

＊２年次のものを抜粋。

①目標に対して取り組んでいること

②困っていること

２年次で学習する科目と年間学習進行予定の一覧。

コラボできそうな科目を線で結んでアイディアを考案

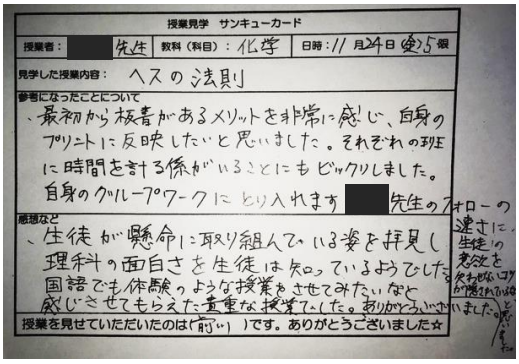
・第２回校内研修全体会　　日時　平成 31 年２月 14 日（木）

西寝屋川版 CanDoList の達成状況の提出期限の前に全体会を開催することで、教科会を開かなくても、研修内で達成状況を作成できる機会とした。１回目同様、IJKST メンバーにファシリテーターとしての役割をお願いした。プロジェクターでタイマーを表示することで、時間管理がしっかり出来るようにした。

b)研究授業・授業見学

●授業見学について

本校では独自の授業観察シート、サンキューカードを利用している。授業見学をした際はサンキューカードに、参考になったことについて、感想などを記入する。使用上のルールとしては批判するのではなく、良いところを書くように留意している。また、自主的な授業公開を促進するために、職員室の掲示板に、「授業を公開します！！」ホワイトボードを設置し、授業公開を希望する教員は日時と内容を書くことで周知することができる。



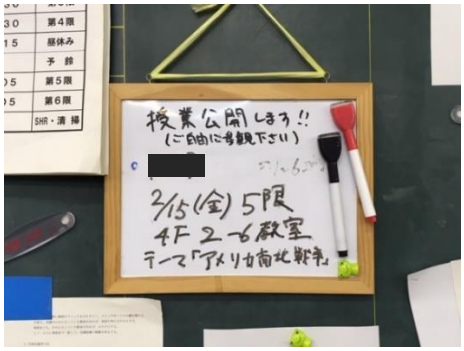


図４）サンキューカード（左）、授業公開します！！ホワイトボード（右）

・研究授業（初任研・10 年目研修・理科研究授業）

【６月・11 月授業見学月間】

６月・11 月は授業見学月間として、全教職員が他の教員の授業を見学する。見学する際は、サンキューカードの記入と、コピーしたものを授業者、教頭に提出するようにお願いした。11 月の授業月間は、ｉプロ通信を通して、初任者研究授業、パッケージ研修研究授業について、授業者から「授業のねらい」「授業への意気込み」を寄稿してもらい、日時の周知を行った。研究授業はビデオ撮影し、見学できなかった教員も後日視聴できるようにした。

【パッケージ研修研究授業】

本年度は理科教員１名が大阪府教育センターの指導・助言をもとに、11 月に研究授業を行なった。

c)ｉプロ通信

・校内の実践事例や研修報告など授業改善に活用できる内容を記事にした。

・第１号（８/23),第２号（10/18),第３号（１/７）までを発行した。

【第１号】

主体的で対話的で深い学びを実践するために、生物基礎（１年）で行ったグループ学習を授業実践として紹介した。アクティブラーニングに関する研修の報告を行った。

【第２号】

７月の職員研修全体会でアイデアとして出されたコラボ授業について紹介した。家庭科で使用された一枚の「コルセット」の写真を英語科でも利用することで、英語で扱ったココ・シャネルの理解が、単なる英語の内容だけではなく、女性の社会進出までも理解できるような深い学びへとつながった実践事例について報告した。

【第３号】

11 月の授業見学月間を終えて、研究授業の振り返り、授業見学月間に提出されたサンキューカードの紹介、２月の職員研修全体会の案内などを記事にした。

d)探究的な活動

本校は１年次の２学期から「総合的な学習の時間」において、「調べ学習」を実施している。新学習指導要領では「総合的な探究の時間」へと変更され、今後、探究的な活動は各高校にとって、重要性が増すことが予想される。本校では、多くの生徒が就職を希望しており、多種の求人票から自分の望む企業を選択しなければならない。その際に必要となることが、自分で考えて、情報を収集し、自分の希望の企業を選択することである。さらに、就職試験では、面接官に対して、説得力のある（根拠に基づいた）説明をすることが必要となる。これは、進学希望者について同じである。これらを踏まえて、**①多くの情報から必要な情報を取り出すこと、②根拠をもって説明が出来るようになること。③そしてそれを他者にわかりやすく表現できること。こういった力を生徒につけさせることを目的として、今年度の総合的な学習の時間を計画した。**

本年度の新たな取り組みとして、科学・テクノロジー・環境のテーマに関しては理科教員が探究活動をサポートした。今年度は 11 名が理科選択を希望し、それぞれ以下のような探究内容で探究的な活動を行った。

①地震に強い家　　ストローを使って家の骨組みをつくり、どのような構造が地震に強いか揺らして実験する。

②ＤＮＡ実験　　ＰＣＲ、電気泳動実験を通してバイオテクノロジーについての理解を深める。

③ＬＥＤ栽培　　小松菜・ベビーリーフを自作のＬＥＤ栽培装置を使って栽培。

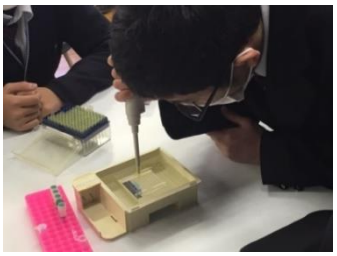


図５）左：探究的な活動のグループ活動の様子。中央：生徒が作成したＬＥＤ栽培装置。右：DNA 実験。電気泳動するためのサンプルをアガロースゲルに入れる様子。

３　取組みの検証

（１）校内研究の成果

①職員研修全体会

第１回職員研修全体会

・多くの教員が参加できるように期末考査期間中、午後の職員会議終了後に設定した。その結果、概ね**８割の教員が研修に参加できた**。（日時設定の重要性）

・西寝屋川版 CanDoList と年間カリキュラム表をもちいて、多くの**教科間コラボ授業のアイデア**が生まれた。

・クラスごとに共通のグループ座席表を用いることで教科、科目が違っていても、**同じグループ**でグループワークの授業をすることが出来るようになった。

・家庭科と英語でおなじ教材を利用することで生徒が**教科のつながりをもって理解することが出来た。**

第２回職員研修全体会

参加者は 47 名で、**約９割の教員が研修に参加**した。学年末考査の前週に実施したため、一部の教員が補習のため参加できなかった。しかしながら概ね参加率は高いと考えられる。ワークショップ型の研修は教員同士が活発に議論することができて、教科ごとに各先生方の授業への取り組みの工夫を共有することができた。さらに**来年度に向けた各教科の重点的な取り組みの目標が明確に宣言**され、次年度に向けた意気込みを共有することができた。

・今回初めて、全体会に参加した教員からは、「授業の話を多くの教員がいる場で話すのは良い。授業をやっていく中で課題はたくさん出てくるので」という感想をもらった。

② 研究授業・授業見学、ｉプロ通信

・ｉプロ通信で研究授業の授業者の意気込み等を記事にした結果、11 月授業見学月間の**授業見学した教員が８割を超えた**。また、サンキューカード（授業観察シート）の内容や研究授業ふりかえりで共有すべき内容をｉプロ通信で記事にすることで、多くの先生が授業活用をできるようにした。

③ 学校教育自己診断（11 月）

・「授業がわかりやすく楽しい」（生徒対象）の項目において肯定的に回答した割合について

昨年度 58.2%→**本年度 63.4%（5.2%の上昇）**

（２）生徒の変容（授業改善により生徒にどのような育ちが見られるか）

・理科アンケートを１年生対象に４月と２月に行った。４月は中学の理科について、２月は１年次に履修する生物基礎・地学基礎について調査した。

表２）理科アンケート（４月、２月実施）、第一学年全員を対象に調査した。表に示したのは肯定的回答が上昇した項目を抜粋した。ただし 15 は反転項目

	アンケート項目	４月	２月

3	理科の授業の内容はよくわかりましたか。	52.7%	**56.4%**
4	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。	33.9%	**42.2%**
5	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。	13.8%	**16.4%**
8	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。	25.9%	**29.3%**
9	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり、発表したりしていますか。	25.9%	**29.3%**
11	理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画をたてていますか。	29.7%	**30.7%**
12	理科の授業で観察や実験の結果をもとに考察していますか。	38.9%	**42.7%**
15	理科の授業で、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりするのは難しいと思いますか。	70.7%	**62.7%**
16	生物基礎・地学基礎ではグループワークの時間をたくさんとりました。グループで議論するのは好きですか。		**54.0%**
17	グループワークで、周りの人と協力して授業に取り組むことができましたか？		**72.0%**
18	これからも授業の中でグループワークを取り入れていってほしいですか？		**67.0%**

【考察】　授業改善により、授業内容の理解が中学に比べてやや上昇していることがうかがえた。また、将来理科の学習が役立つと考える生徒や、学習したことを普段の生活の中で活用できないかと考える生徒が増えたことは、授業の中で、生活と結びつけた導入ができていることや、探究的な学習の中で理科

アンケート項目	肯定率
探究的な活動を通して、実験・調査したことに興味関心をもつことができたと感じる。	**81.8%**
授業を受けて、実験・調査に関する知識や技能が身に付いたと感じる。	**90.9%**
グループのメンバーと協力して活動できた。	**72.7%**
このような活動をこれからもやっていきたいと思う。	**81.8%**

の内容が必要としたからではないかと考えられる。また、生物基礎・地学基礎ではグループ学習を授業で積極的に取り入れることで他者へ表現することに対する苦手意識がやや薄らいだのではないかと思われる。２月のアンケートでは質問項目としてグループ学習について追加したところ、大半の生徒がグループ学習に対して肯定的な印象をもっていることがわかった。

・探究的な活動（理科選択者）

【考察】

探究的な活動を実際に始めたのが遅く、準備不足であったことが否めない。しかしながら、探究的な活動を通した生徒の授業に対する満足度は非常に高く、今後もこのような活動を続けていくことが重要であると考えられる。

（３）教員の変容（授業改善により教員が何を学んだか・どんな感想をもったか）

パッケージ研修の研究授業を実施した地学基礎（１年）の授業者が、さらなる授業改善をめざして、自発的に取り組む動きが見られた。ただ板書を書き写すだけでなく、生徒自身の頭で考えて、それを自分自身の言葉で表現できるような授業が３学期に実施された。この授業担当者はこの教材の評価方法に

ついて、直接、指導主事に助言をもらいに行くなど、自ら進んで良い授業をしようとする教員の変化がみられたことはパッケージ研修をした意義の一つと考えられる。

第２回職員研修全体会では、来年度重点的に取り組みたい課題を全体に表明してもらい、共有した。その中には以下のような目標が表明された。

・数学では、教員からの説明を必要最小限にして問題演習に取り組む時間を多く確保し、実技教科のように生徒が主体的に活動できるようにしていきたい。
・理科では答えを与えずに考えさせることを重視したい。
・地理歴史科・公民科では、正直これまで共有することができていなかった。来年度は教科で連携して授業に取り組んでいききたい。

そのほかにも各教科で来年度に向けた前向きな重点目標が全体で共有されたが、これまで教科内での協力が十分でなかった教科も来年度は教科内で連携をとって前向きに授業を良くしようとする様子がみられたのは、授業改善が一部の教科だけでなく学校全体で取り組もうとする姿勢へと変化してきていることが感じ取られた。

４　今後に向けて

（１）今年度の課題

・IJKST のメンバーが中心に授業改善を行っているが、有志で集まっているため、定例の会議等がなく、役割分担も不透明である。この点の解決策としてはいくつかのプロジェクトグループをつくってグループごとに活動をする。

例えば)・全体研修企画担当、ｉプロ通信担当、助成金公募担当など

・職員研修全体会でつくった、西寝屋川版 CanDoList ・年間カリキュラムをいかに活用していくか現状、研修の成果物は写真に撮って、教員全員がアクセスできる統合ＩＣＴの共有フォルダに保存しているが、活用されているかどうかは不透明である。これに対する解決策と活用方法として以下のことが考えられる。

→職員室などの教員が良く見える場所に貼ることで、普段の授業で活用できるようにする。
→新学習指導要領に基づいた新カリキュラム作成の際に活用する。

（２）次年度に向けて

本校の授業改善は学校全体として良好に進んでいるのではないかと考えられる。しかしながら、授業には 100%完成はありえないのではないだろうか。どんな力を生徒につけさせたいか日々模索しながら、他の教員と協力しながら進めていくことが重要であると考えられる。そのためにも、次年度以降も、IJKST のメンバーを中心に職員研修全体会、授業見学、ｉプロ通信発行、新たな授業開発を行うことで、継続的に授業改善することが次年度に向けた課題である。

学校番号（　　２０８　　）府立（　　西寝屋川　　）高等学校

平成 30 年度　校内研修年間実施報告

1　平成 30 年度の目標(テーマ・主題)

チーム西寝屋川　　つながる授業改革
～つながる知識・つながる生徒・つながる未来～

２　実施日・内容等

月	日	校内研究の実際	
		研究推進委員会　等	教職員全体研修会　等
4	4	第１回ミーティング ・メンバー確認 ・今年度の目標や活動について	
	16	第２回ミーティング ・学校経営推進費について	
5	1	第３回ミーティング ・学校経営推進費について	
	11	第４回ミーティング ・学校経営推進費プレゼン練習	
6	27	第５回ミーティング ・第１回職員研修全体会打ち合わせ	校内授業見学月間（６月中）
7	5		第１回職員研修全体会
	24	第６回ミーティング ・第１回職員研修全体会振り返り	
8	23	i プロ通信第１号発行	
10	18	i プロ通信第２号発行	
	26		パッケージ研修・研究授業「地学基礎」
11			授業見学月間（11 月中） 初任者研究授業など
12	13	第７回ミーティング ・授業見学月間振り返り ・第２回職員研修全体会に向けて	
1	7	i プロ通信第３号発行	
2	6	第８回ミーティング ・第２回職員研修全体　打ち合わせ	
	14		第２回職員研修全体会

	20	成果報告書配付・意見収集及び校正	
3		第９回ミーティング ・本年度の振り返りと次年度向けた準備（予定）	

学校番号（　　２０８　　）府立（　　西寝屋川　　）高等学校

平成 31 年度　校内研修年間計画

1　平成 31 年度の目標（テーマ・主題）

続　チーム西寝屋川　　つながる授業改革　（仮称） ～つながる知識・つながる生徒・つながる未来～

２　年間予定

月	日	校内研究計画	
		研究推進委員会　等	教職員全体研修会　等
4		第１回ミーティング ・メンバーの確認 ・今年度の目標や活動について	
5		第２回ミーティング ・授業見学月間に向けて	
6		第３回ミーティング ・職員研修全体会打ち合わせ	授業見学月間
7			第１回職員研修全体会
		第４回ミーティング ・全体会振り返り、２学期に向けて	
8		第５回ミーティング ・２学期の取り組みについて	
10		第６回ミーティング ・授業見学月間に向けて	
11			授業見学月間
12		第７回ミーティング ・授業見学振り返り	
1		第８回ミーティング ・第２回職員研修全体会打ち合わせ	
2			第２回職員研修全体会
3		第９回ミーティング ・今年度の振り返りと次年度に向けて	